

地震発生時の対応マニュアル

1. 地震発生時の避難の心得

① 地震直前（緊急地震速報） / 地震発生

■緊急地震速報がでたら、身を守る準備を！

周りの人に知らせ、身をかがめ

頭部を保護するか、安全な場所へ移動

窓や倒れる可能性のある物から離れる

【地震時に身を守る3つの安全行動】



【大学構内にいる時】

<教室等にいる時>

- (1) 個人行動やパニックは、被害を大きくすることがあるため、冷静に、落ち着いて、教職員の指示に従う。
- (2) 窓や棚、ガラス等が割れたり中のもものが飛び出しそうなものから離れる。
- (3) 机の下等にもぐるか、バッグ・衣類などで頭を覆うなどして、落下物から頭と手足を守る。
- (4) 余裕があれば、ドア付近にいる人は、ドアを開け、出口を確保する。
- (5) 演習等で、熱湯や薬品などを使用している時は、身の安全の確保を最優先し一旦離れる。
- (6) エントランスホール / 学生ホールにいる場合は、安全な場所に集まってしゃがみ、落下物に注意する。

<廊下、階段にいる時>

- (1) 壁が倒れてくる可能性があるので、壁には寄らず、できるだけ教室に避難して机の下にもぐる。
- (2) 教室がない場合は、LED灯などの下から離れ、衣服や持ち物などで頭を覆いかがみこむ。
- (3) 階段を通行中の場合は、すみやかにそこから離れ、安全な場所に退避する。

<エレベーターに乗っている時>

- (1) 最寄りの階のボタンを押して、停止した階で降りる。
- (2) 途中で停止した場合は、非常ボタンやインターホンで外部に救助を求め

る。

<グラウンドにいる場合>

広場やグラウンド等、落下物がない場所にいる場合は、その場で座り込み揺れがおさまるのを待つ。

【大学以外にいる時】

<乗り物に乗っている時>

- (1) 急停車に備え、つり革・手すりなどにすぐつかまる。
- (2) 停車しても、勝手に非常コックを使って車外へ出たり、窓から飛び出したりせず、乗務員の指示を待つ。
- (3) 特に地下鉄などは、線路横に高圧電流が流れており極めて危険（案内があるまで、路線に降りるのは危険です）。

<地下にいるとき>

- (1) あわてて出入りに殺到させないように、いったん壁や太い柱に身を寄せ、係員の指示に従う。
- (2) 停電になっても非常用照明灯がすぐつくので、落ち着いて行動する。
- (3) 出火がある場合は、近くの消火器ですばやく消火する。
- (4) 地下での火災は煙や有毒ガスが充満しやすく危険である。ハンカチなどで鼻と口を覆い、体をかがめて這うように壁伝いに煙の流れる方向へ避難する。

<路上にいるとき>

- (1) その場に立ち止まらず、衣服や持ち物などで頭を覆いながら近くの空地、公園や頑丈そうなビルの中へ避難し、落下物からの危険を回避する。
- (2) ブロック塀や自動販売機など設置物のそば、ビルの壁際などへは近づかない。
- (3) 垂れ下がった電線には近づかない。
- (4) 崖や川べりは、地盤が緩み崩れやすくなっている場合があるので近づかない。地面の亀裂、陥没や電柱、塀等の転倒に注意する。

<自宅等にいるとき>

- (1) 基本的には、教室等にいるときと同様に、あわてて外へ飛び出さず、机の下等に身をかくし揺れがおさまるのを待つ。

(2) 足元の散乱物や落下物に注意して避難などの対応を行う。

<実習先の病院・施設にいる時>

大学構内に準じ、冷静に行動する。受け持ちや患者が動揺するため大声を出さない。

② 地震後（揺れがおさまったら）

■ 避難口の確保と負傷者や火元の確認！

冷静に、落ち着く。

自分のいる場所は安全か？

火災が起きていないか？

(1) 火災の場合は自分の身が安全な範囲で周囲の協力を得ながら初期消火。

また、消火が困難と判断した場合は、火から離れる。

(2) 負傷者はいないか？

(3) 負傷者がいる場合は安全な範囲で周囲の協力を得ながら応急手当を行う。

(4) 建物の傾き、壁のひびなどを確認。

(5) 余震の可能性もあるため、あわてずしばらく様子を見る。

(6) ガラス、ホワイトボード、モニター等が倒れるおそれがなく、天井からの落下物や危険物の流出が無いと確認できた場合は、その場にとどまる方が安全である。

■ 避難指示および避難行動

落ち着いて、安全に避難

押さない 走らない シャべらない もどらない

③ 避難

(1) 教室にいる場合は、あわてて出口に殺到しないよう、教職員の指示に従って避難する。

(2) 授業中であれば、教員を中心にひとかたまりになって、その他の場合でも声をかけあってできるだけ集団で冷静に避難する。

(3) 大きな地震には余震がある可能性が高いため、教職員の指示に基づき避難経路に添って避難させる。

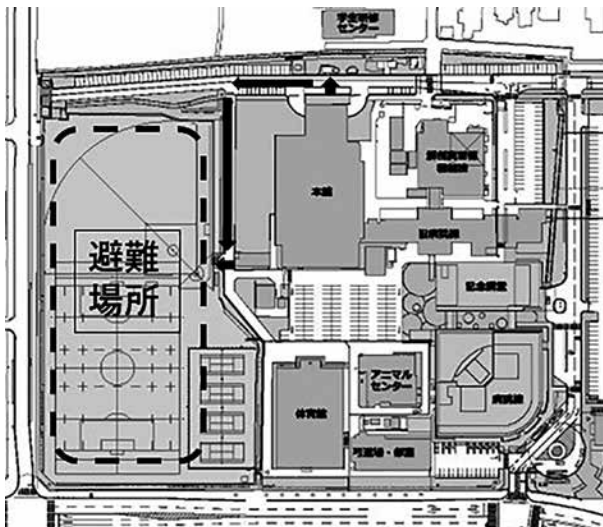
①福岡歯科大学グラウンド：避難場所

- (4) 落下物や機械類、棚等の転倒、地震による段差や陥没などに十分注意しながら、速やかに避難する。
- (5) 避難は徒歩で、持ち物は最小限にとどめること。
- (6) 身障者や負傷者がいる場合は、手助けしながら避難する。
- (7) 重症等により避難できなかった人や行方不明者がいる場合は、教職員にすぐ連絡する。
- (8) 室内では壁伝い、廊下では中央を通る。エレベーターの使用は厳禁。必ず階段を使用する。
- (9) 停電している場合は、緑色の誘導等を目印に避難する。
- (10) 避難場所においては、けが人等に対して医師などの応援が駆けつけるまで、できる限りの応急措置を施す。

避難場所

(避難マップ)

避難場所は、広く、火災による延焼の恐れがないところが適している。地震時の状況により安全な場所に直接地区避難場所（福岡歯科大学グラウンド）に避難する場合もある。



※ 単独行動は厳禁

※ 情報収集の際には、チェーンメールやうわさなどにまどわされず、大学や公共機関からの正確な情報を入手して行動する。

【大学以外にいる時】

<実習先の病院にいる時>

- (1) 実習開始前に病院施設のオリエンテーション（非常時）の確認を行っておく。
- (2) 災害後、病院施設の災害マニュアルに従った避難行動をとる。
- (3) 管理単位責任者（診療科長等）の指示に従い、実習担当教員は学生を誘導し、病院施設指定の避難場所に移動する。

<通勤・通学中>

- (1) 被害状況を正しく把握する。
- (2) 事前に家族と相談して決めた避難場所に移動する。ただし、被災場所やその場の状況によっては安全を最優先し別の避難場所に移動する。
- (3) 避難中は警察や消防の指示に従う。
- (4) ビル内や地下街にいた場合は、「①地震発生：地下にいるとき」の行動をとる。

<自宅>

- (1) 平時より自宅地区の具体的な情報収集手段および緊急避難場所等の確認を行っておく。足元の散乱物や落下物に注意して地域の避難計画にそって対応を行う。

2. 安否等の連絡

大きな災害が発生した場合は「自分の安否や避難先」などの状況を直ちに学務課へ連絡してください。

なお、安否等を連絡する場合は、友人など他の学生の情報がわかっている場合は併せて連絡してください。

(1) 学内にいる場合

○避難場所で学務課による安否確認が行われます。

(2) 学外にいる場合

○大学へ安否の連絡をしてください。大学に連絡が取れない場合は、助言教員等に連絡するなど、遅れても何処かには連絡してください。

(3) 家族等への連絡

○地震発生直後は携帯電話が使用できるか予測がつきません。復旧等も遅れることが想定されます。大学においては皆さんのご家族からの問い合わせも多数あるものと考えていますが、皆さんからの情報がなければ対応は難しくなります。大学への安否等の連絡と併せて家族等への連絡もお願いします。

(4) 連絡先

- 電話 092-801-1884、1885
- FAX 092-801-0427
- Eメール gakumu@fdcnet.ac.jp